

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471903136	事業の開始年月日	平成18年3月1日	
		指定年月日	平成18年4月1日	
法人名	有限会社 ライム倶楽部山下			
事業所名	グループホーム来夢の家			
所在地	(238-0046)			
	神奈川県横須賀市西逸見町1-38			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成22年9月15日	評価結果 市町村受理日	平成22年11月18日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・季節を感じて頂けるよう、催し物の開催等、工夫をしている。
- ・ご家族様と一緒にターミナルケアに取り組んでいる。
- ・得意なことを活かしたホーム生活を送って頂けるように努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成22年10月22日	評価機関 評価決定日	平成22年11月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

- <事業所の優れている点>
- ◇協力医、家族との連携による終末期までの看取り介護
重要事項 説明書には、重度化し終末期でも住み慣れた生活環境の中での生活の維持を明文化し、開所4年半で既に10名の利用者を看取っている。
重度化、終末期ケアの対応指針があり、徒歩3分の所にある協力医の指導の下、家族、職員一体となって看取りに対応している。
 - ◇地域の理解を得ての交流の活発化
地域の祭りやふれあいサロン、輪投げ大会に招待されたり、事業所の盆踊りには、家族も地域の人と一緒に交流している。また、盆踊りの指導、おやじバンド、神輿やお囃子などの来訪もある。近くの保育園児と利用者合同での散歩もある。
 - ◇マイペースで過ごす日常生活
朝食に起きてこない利用者は無理には起さない。自分の家だったらそうでしょうと職員はそのペースを大切にしている。テレビを見る人、おしゃべりする人、独りで歩き続ける人、それぞれが見守られてマイペースで暮らしている
- <事業所が工夫している点>
- ◇滑り止めのバスマットやゴミ箱、壁の紅葉飾りなど職員手作りの改善、演出が多く見られなど、現場からの提案が尊重されている。
 - ◇手元にある食材の名前をあげて選んでもらい、肉と魚のどちらを使うか決めてもらうなど、利用者の希望を簡単でわかりやすく表現できるように工夫している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム来夢の家
ユニット名	壱番館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

来夢の家（壱番館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作成し、各ユニットに掲示している。日々の生活において、理念が反映されているか、定期的にミーティング等にて、管理者を交えて話し合いを行なっている。	・創設スタッフで作った理念「慈愛、尊厳、受容のこころを大切に」が玄関に掲示してある。 ・現場では入居者をお世話するのではなく、先輩として敬うことを教育している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事に積極的に参加させて頂くと共に、ホーム主催の花火大会に地域の子供達にも参加して頂く等、交流を図っている。	・運営規程に地域との積極的参加・交流を掲げ、町内会に加入して、輪投げ大会等の行事に参加している。 ・ホームでの盆踊りや花火大会も町内会の人や子供が参加している。近くの保育園児との合同の散歩もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者・代表職員が中心となり、1回/月のミーティングや勉強会を開催、その中でグループホームの役割について、話し合うようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所からの報告と共に、質問・意見・要望等に応じ、それを職員全員に周知する機会を設けている。	・利用者・家族、町内会長、民生委員が入り、年6回開催している。 ・神輿、お囃子や盆踊りの指導のなど、地域からの提案も多い。職員には月例ミーティングで報告し、議事録も閲覧自由にしてある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外で担当者と直接会って話をする機会は設けていない。	・横須賀市グループホーム連絡協議会に役員として参加し、市からの情報を得ている。 ・市生活福祉課とは入居者の状況確認などで連絡をとっている。	

来夢の家（壱番館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全に留意しながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、ミーティング等にて身体拘束防止について話し合うようにしている。	・重要事項説明書に明文化し、実践要綱に定義や止むを得ない場合の判断基準を定めている。 ・職員は日常生活の中でことばによる抑制をしていないかを振り返り、確認しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加すると共に、1回／月ミーティングや勉強会で職員に周知する機会をもつよう、心がけている。ホーム全体で虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加をし、その内容を職員全員に周知させる機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、必要事項の説明をしっかりと行い、御家族等と確りコミュニケーションをとるよう心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットの入り口にご意見箱を設置し、入居者様やご家族様にご意見をいただけるようにしている。また、苦情等の受付窓口を明確化し、早期対応及び解決を図るよう努めている。	・意見箱を設置したが利用はまだない。家族の来訪時に職員から話しかけて意見を出してもらうように努めている。 ・提案があった箸の長さなど利用者に関する要望はスタッフで検討し、すぐに対応している。	

来夢の家（壱番館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/月のミーティングをふまえ、運営者と管理者とで話し合う機会を設けている。	・月1回のミーティングで話合うほか、ホーム長行き連絡ノートに毎日意見や提案を記載している。 ・ゴミ箱の体裁、使い捨て手袋置き場、書式改善など職員からの提案が活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得により、個々のレベルアップを図れるよう、促しを行っている。また、資格手当を設けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や市による勉強会や研修に段階に応じた職員を参加させるよう心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	協議会を活用し、他の施設との交流を図れるよう、心がけている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分にコミュニケーションを図り、不安なく、ご入居頂けるよう、また入居後も安心してホーム生活を送って頂くことが出来るよう、努力している。		

来夢の家（壱番館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分にコミュニケーションを図り、不安なく、ご入居頂けるよう、また入居後も安心してホーム生活を送って頂くことが出来るよう、努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、お手伝いできる部分とできない部分を分析し、他サービスの利用方法等をお話しするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様の出来る事（得意なこと）を見極め、極力一緒に行なえる事柄を見つけ、楽しみながら、笑いながら、行なえるよう心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	町内行事にご家族等も一緒に参加して頂いたり、季節の行事・お誕生日会の際、ご家族様にも参加して頂き、同じ時間を共有することで他のご入居者や職員のことを理解して頂けるよう、努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居者様の生活歴等を最大限考慮し、大切な思い出とともに生活して頂けるよう、努めている。また、ご家族等の協力も得ながら、知人・友人との交流も途切れないよう、配慮している。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が、スーパーや昔馴染みの薬局、和菓子店などに買物に行けるように支援している。 ・途中で馴染みの人に出会ったり、入居者から店の人を紹介されたりする。近所の知人の来訪もあり、歓迎している。 	

来夢の家（壱番館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、ご入居者様同士がより良い関係を構築できるよう、努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	居宅介護支援事業所との引き継ぎを確りと行なうと共に、介護方法や必要物品の調達等についてアドバイスを行なっている。また、定期的に連絡をとり、介護者のストレスを軽減できるよう、支援している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の言動や表情から本人の意思を汲み取り、その人らしく、ホーム生活を送って頂けるよう、心がけている。	・意思疎通が困難な場合は、表情やしぐさを観察・討議し、その人の思いを汲み取っている。 ・「ご飯作りま〜す」と利用者呼びかけ、自宅でしてきた自分の役割が自然な形で活かされるきっかけを作っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族等と小まめなコミュニケーションを図り、これまでの生活歴等を把握し、職員全員が共有することができるよう、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の一人ひとりの状況を把握し、出来る事柄には積極的に参加して頂けるよう、努めている。		

来夢の家（壱番館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じ、ご家族等に参加して頂き、家族カンファレンスを開催。ご家族等の要望をしっかりと取り入れたプラン作成を心がけている。	・家族とホーム長、計画作成担当者でカンファレンスを行い、結果をスタッフのケースカンファレンスで介護計画に反映させている。 ・見直しは6か月毎のほか状況の変化があった場合や入退院などの折随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録への記入を小まめに行い、朝夕の申し送りの際には、確りと一人ひとりの状況を伝達できるよう、努めている。また、全職員が情報の共有をするため、申し送りノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族等やご入居者様の要望に対しては、可能な限り対応できるよう、人員配置をはじめ、柔軟な支援を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着を心がけ、町内会長や民生委員を初めとし、たくさん地域の方々にご協力頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族等・ご入居者様が納得した医療を受けることができるよう、ホームドクター・管理者と共に確りと話し合っ決めていくことができるよう、心がけている。	・入居当初、かかりつけ医の利用者もいたが、現在は全員協力医を利用している。 ・心療内科医の往診が月1回あり、随時電話でも対応している。通院が必要な場合は、職員が介助をしている。	

来夢の家（壱番館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ほぼ毎日、看護師による処置やバイタル測定、採血等を行っている。また、職員に対してのアドバイスも行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の主治医やご家族等との話し合いを重ね、方向性を決めている。同時にホームドクターとの連携を図り、職員全員と情報共有を行ない、退院に向けての準備を行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームドクター・管理者が中心となり、ご家族等・ご入居者様の意向を汲み取れるようにしっかりと話し合い、方向性を決めている。また、それを職員全員で共有するよう、徹底している。	<ul style="list-style-type: none"> ・重要事項説明書で対応指針を明確化している。本人、家族と相談し協力医の指導の基で10人を看取ってきた。 ・内外研修に職員の参加実績があり、重度化や見取りに関する資料も整理している。 	看護、介護を中心とした研修内容に加え、今後は、終末期での本人や家族への心的ケア、更には、職員の心理面についての研修も期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1回／月のミーティングや勉強会の際、全職員が対応できるよう、講習会を開催するよう努めている。また、緊急時には管理者への迅速な報告を徹底している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各ユニットの目に付くところに防災マニュアルを掲示している。2回／年（春・秋）には防災訓練を実施。	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の消防団が参加する防災訓練を10月に実施する。また顔つなぎも兼ねて地域防災訓練にも参加している。 ・関係機関、家族との緊急連絡網があり、市の緊急通信FAX網にも加入している。 	

来夢の家（壱番館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様一人ひとりが気持ちよく安心してホーム生活を送る事ができるよう、個人情報の管理は徹底している。また、写真等掲示する場合には、ご家族等の了解を得るよう、心がけている。	・理念のひとつに利用者への尊敬があり、「ダメ」という言葉を禁句にしている。 ・個人ファイルは、鍵付保管庫に保管している。行事写真や、広報誌への掲載は契約時に説明して了解を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己判断・自己決定ができるよう、本人の話を傾聴するよう努めている。また、職員の都合で判断しないよう、注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様一人ひとりの生活歴に合わせ、また、一人ひとりのペースを大切にするよう、日々心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員だけではなく、ご家族等の協力も得ながら、その人らしい生活ができるよう、また外出する機会を多く設けることができるよう、支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事への参加が困難であっても、食事づくりの雰囲気や臭いで感じ取っていただけるような環境づくりを行なっている。また、職員は必ずご入居者様と一緒に食事を摂っている。	・在庫の食材から食べたいものを選んでもらい、献立を決めている。里芋の皮むきなど入居者が主役で下拵えから準備している。 ・食事時はテレビを消し、職員も一緒に会話をしながら食事をしている。	

来夢の家（壱番館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量のチェックを行い、個人別にまとめ、一日の摂取量が一目で分かるようにしている。また、排尿量等の観察も行い、脱水症状等の予防に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず歯磨き等の口腔ケアを行なって頂けるよう、声かけや介助を行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握する為、排泄表を個人別に作成している。また、その人のリズムに合わせた支援を心がけている。	・排泄の記録からその人のパターンを把握し、トイレ誘導を行っている。 ・歩く練習などの理由で誘うこともある。トイレで座る習慣がついてオムツがリハビリパンツになった改善例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、朝夕に必ず排便状況の確認を行なっている。小まめな水分摂取及び適度な運動を心がけるとともに、内服薬の調整を行い、排便コントロールを行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	安全に配慮し、可能な限りいつでも入浴して頂けるような体制を整えるよう、努めている。	・重要事項説明書で随時入浴できると明記してあり、毎日午後2～3人が入浴している。 ・入浴を好まない人には、時に葉説得し泣き落とし作戦も使うこともある。	

来夢の家（壱番館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、安心して眠って頂けるような環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服一覧表を用い、予薬時に確認している。また、往診ノートに新しく処方された薬の名前・用法・用量等を記入し、全職員に周知するよう、努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者様の得意・不得意を把握し、出来る限り、得意な事柄を活かしたホーム生活を送って頂けるよう、支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全職員がお散歩や買物等に対応できるよう、努めている。	・天気の良い日は、車椅子の人も一緒に近くの海岸や駅通りへ買物に出かけている。 ・家族が迎えに来て、神社など本人の行きたい場所の名前を挙げ、希望を聞いて出かけている。毎日外出する人もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにてご家族等よりお小遣いとしていくらかお預かりさせて頂いている。その中で日々、本人にとって必要な物を近所へ買物に行く等、心がけている。		

来夢の家（壱番館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族等と相談して個人で携帯電話を持って頂いたり、定期的にご家族等向けに葉書を送らせて頂いている。その際にはお一人ずつメッセージ等を書いて頂ける様、心がけている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに外出時の写真を掲示したり、季節毎の飾りつけを行なう等、暖かい雰囲気作りに努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・行事写真の掲示や手造りの紅葉の壁掛けで季節感を演出している。 ・ソファでテレビを見る人、仲間とおしゃべりする人、独りで歩き続ける人それぞれが見守られながら自由な行動で一日を過ごしている。 	階段は、段差が少なく踏面も広いのですが、踏板の縁が踏面と同色のため、視力が衰え暗いときには見分け難い感じがします。踏み板の縁に識別テープを貼るなどの対応が望まれます。
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを設置、テレビを観ながら寛いだり、新聞を読んだり、歌を唄ったり、団欒できるような空間作りを心がけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮しながら、ご入居者様が好きなものを置いて頂くことができるよう、配慮している。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室の入口には、それぞれのハロウィン飾りで季節のマイホームを演出している。 ・ベッドなどクローク以外の調度品は入居者の好みのものを持ち込んでおり、孫の写真などの私物が飾ってある。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者様一人ひとりの認知度に合わせ、段階を踏んで説明等を行い、混乱を防ぐよう心がけている。その人らしい生活を送って頂くことができるよう、支援している。		

事業所名	グループホーム 来夢の家
ユニット名	式番館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

来夢の家（弐番館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作成し各フロアに掲示。定期的にミーティング等にて、管理者を交えて話し合い行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに入居者様と一緒に参加させて頂いたり、逆に地域の子供達をお呼びし、入居者様と一緒に花火大会を行う等こまめに交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者・代表職員が中心となり、1回/月のミーティングや勉強会を開催。その中でグループホームの役割について話し合うようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所からの報告と共に、質問・意見・要望等に応じ、それを職員全員に周知する機会を設けている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外で担当者と直接会って話をする機会を設けていない。		

来夢の家（弐番館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全に留意しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。又、身体拘束防止の為、申し送り時やミーティングの際に定期的に話し合うよう心がけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	こまめに外部研修等に参加すると共に、フロアミーティング等にて話し合い持つよう心がけている。ホーム全体で虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、その内容を職員全員に周知させる機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、必要事項の説明をしっかりと行い、ご家族様・ご入居者様としっかりコミュニケーションを取るよう心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットの入り口にご意見箱を設置し、入居者様やご家族様にご意見を頂けるようにしている。又、苦情等の受付窓口を明確化し、管理者より職員への指導を徹底している。		

来夢の家（弐番館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/月のミーティングをふまえ、運営者と管理者とで話し合う機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得により、個々のレベルアップを図れるよう促しを行っている。又、資格手当を設けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や市による勉強会や研修に段階に応じた職員を参加させるよう心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	協議会を活用し、他の施設との交流を持つよう心がけている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分にコミュニケーションをとり、不安無くご入居頂けるよう、又、ご入居されてからも安心してホーム生活を送って頂くことが出来るよう努力している。		

来夢の家（弐番館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分にコミュニケーションをとり、不安無くご入居頂けるよう、又、ご入居されてからも安心してホーム生活を送って頂くことが出来るよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、お手伝い出来る部分と出来ない部分を分析し、他サービスの利用方法等をお話するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るだけ家事等を職員とご入居者様とが一緒に行うようにし、楽しみながら、笑いながら行えるよう心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	町内イベントと一緒に参加して頂いたり、季節の行事・お誕生日会の際にもご家族様にも一緒にご参加頂き、同じ時間を共有することで、他入居様のことや職員のことを理解して頂く様努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居者様が普段お買物をされていた場所で、ご入居者様本人のお買物をしたりするよう心がけている。		

来夢の家（弐番館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介することにより、ご入居者様がうまく関係を築くことが出来るよう、支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	居宅介護支援事業所との引き継ぎを確り行うと共に、介護方法や必要物品の調達等についてアドバイスを行っている。また、定期的に連絡をとり、介護者のストレスを軽減できるよう、支援している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	なるべくおうちで生活されているような感覚でホーム生活を送って頂けるよう心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様とこまめにコミュニケーションを図ると共に、これまでの生活歴等を把握し、職員全員が共有することが出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日のお一人おひとりの状況に応じ、出来る事柄には積極的に参加して頂けるように努めている。		

来夢の家（弐番館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じ、ご家族様にご参加頂き家族カンファレンスを開催。ご家族様の要望をしっかりと取り入れたプラン作成するよう心がけている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	こまめに個人記録へ記入することを心がけ、朝夕の申し送りの際にしっかりとお一人おひとりに対し申し送るよう心がけている。又、全職員情報共有する為、申し送りノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様やご入居者様の要望に対しては、出来る限り対応するよう人員配置に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着を心がけ、町内会長や民生委員を初めとし、たくさんの地域の方々にご協力頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様・ご入居者様が、きちんと納得して医療を受けられるよう、ホームドクター・管理者と共に確りと話し合っ決めて頂くことが出来るよう、心がけている。		

来夢の家（弐番館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ほぼ毎日看護師による処置やバイタル測定、採血等行っている。また、職員に対してもアドバイス行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の主治医やご家族等との話し合いを重ね、方向性を決めている。同時にホームドクターとの連携を図り、職員全員と情報共有を行い、退院に向けての準備を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームドクター・管理者が中心となり、ご家族様・入居者様としっかり話し合い、方向性を決めている。又、それを職員全員で共有するよう徹底している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1回／月のミーティングや勉強会の際等で全職員が対応出来るよう講習会等を開催するよう努めている。また、緊急時には管理者への迅速な報告を徹底している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各フロアー目のつく所に防災マニュアルを掲示している。2回／年、春と秋に防災訓練を実施。秋には消防署や地域の方々にご協力頂き、大規模で防災訓練を実施するよう努めている。		

来夢の家（弐番館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様お一人おひとりが、気持ち良く安心してホーム生活を送って頂くことが出来るよう、個人情報の管理は徹底して行っている。又、写真等掲示する場合はご家族様へ了解を取るよう、心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己判断・自己決定が出来るよう、マンツーマンでお話させて頂く等、対応に注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様お一人おひとりの生活暦に合わせ、お一人おひとりのペースを大切にしよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員だけではなくご家族様にもご協力頂き、おしゃれをしたり外出をしたりする機会を多く設けることが出来るように心がけている。又、ご希望の方には、お化粧品等もして頂けるよう、お声かけを行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員だけで作るのではなく、なるべく多くの方に参加して頂くことが出来るよう工夫するようにしている。又、小さなことでもご自分で選ぶことが出来るよう、選択肢を設けるように心がけている。		

来夢の家（弐番館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックや水分量のチェックを行い、お一人ごとにまとめ、一日の摂取量が一目で分かるようにしている。摂取量の少ない方に対しては、状況に応じて高カロリードリンクや代替品を召し上がって頂くよう心がけている。又、排尿量等も観察を行い、脱水症状等の予防に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず歯磨き等の口腔ケア行ってもらえるよう、お声かけや介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限りトイレにて排泄して頂けるよう、排泄表を各個人で作成。記録を取ることで、お一人おひとりの排泄パターンの把握に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日朝・夕必ず、排便状況の確認を行うよう努めている。又、出来る限り歩行練習や体操等の個別リハビリを行う等、お一人おひとりに合った運動を取り入れ、便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	安全に配慮しながら、出来る限り24hいつでも入浴して頂ける体制を整えている。		

来夢の家（弐番館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居者様お一人おひとりに合わせ、安心して眠って頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者様お一人おひとりに対し現在処方薬の名前や用法・副作用が記載されたものを個人別にファイリングし保管。全職員が目を通すことが可能な状態にしている。新しいお薬に関しては往診ノートに名前・用法・用量等細かく記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者様の得意・不得意を把握し、なるべく得意な事柄を活かして、ホーム生活を送って頂くことが出来るよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	特定の職員に限らず、全職員がお散歩やお買物等対応出来るよう努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにて、ご家族様よりお小遣いとしていくらかお預かりさせて頂き、出来る限り近所へお買物へ行く際には、お金を普段持たれない方でも、ご自分の物をご自分で払って頂くことが出来るよう心がけている。		

来夢の家（弐番館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と相談し、個人で携帯電話を持って頂いたり、定期的にご家族向けに葉書を送らせて頂き、お一人ずつメッセージを書いて頂けるよう、心がけている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに皆で行った外出時の写真を掲示したり、季節に合わせた飾りつけ等を行い、暖かい雰囲気作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを設置。テレビを観ながら寛いだり、仲の良い方同士でお喋り等が出来るような空間作りを心がけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮しながら、ご入居者様がお好きな物を置いて頂くことが出来るよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者様お一人おひとりの認知度に合わせ、段階を踏んで説明等を行い混乱を防ぐよう心がけている。その人らしい生活を送って頂くことが出来るよう支援している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム来夢の家

作成日 平成22年11月18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	終末期を迎えた利用者及び家族のメンタルケアについて学ぶ機会を設けたい。	研修案内等を職員へ周知し、積極的に参加できるようにしていく。研修で学んできたことについてホーム内で研修会を開催できるようにしていく。	県及び市の協議会主催の研修を活用していくとともに、月に1度のミーティングにてホーム内研修が開催できるように、調整を図っていく。	1年
2	52	階段の踏面と踏板の縁が同色のため、見分け難く、転倒・転落のリスクがあるため、改善していきたい。	踏面と踏板の識別ができるよう、テープ等で対応していきたい。	早急に識別テープ等を用意し、対応していく。	数ヶ月
3					
4					
5					